

おひさま通信は、おひさま進歩エネルギー及びグループ会社の活動をご紹介する冊子です。

## 野底川小水力発電所 完成に向けてへー歩ずつ

飯田市上郷の野底川で建設中の「野底川小水力発電所」は、今年1月の着工から10ヶ月あまり経ち、工事が大詰めを迎えています。11月末より、発電所建屋へ水車や高圧受電設備の搬入も始まりました。また、9月から発電所愛称の一般公募も行いました。2023年春の完成を目指して、一歩ずつ進む現場の様子を紹介します。



### 発電所建設の様子



■取水設備（12/2撮影）

11月現在、川の水を流し込む水槽や沈砂池はすでに完成しています。今冬には、川から水を取る取水口を設置します。



■水圧管の埋設工事（9/8撮影）

取水設備から引き込んだ水を発電所へ送る水圧管（全長約1キロ）は、大部分を林道下へ埋設しました。写真は、管が露出する水管橋の工事の様子です。



■発電所建屋（12/2撮影）

発電所は建屋の外壁・川へ水を戻すための放水路が完成。11月末から水車と発電機、変圧器などの搬入・設置が始まりました。



■発電所建屋へ水車を搬入（11/29撮影）

イタリアの水車メーカー・ZECO社製の水車が納品。同社技術・設計スタッフなど3人が来日して、おひさま社員と搬入に立会いました。



### 発電所の愛称「もりデンこりき君」に決定！

「野底川小水力発電所」が地域の皆さんに親しまれ、再生可能エネルギー事業へ関心を持っていただくきっかけとするため、今年9月から愛称（ニックネーム）の一般公募を行いました。その結果、飯田市内をはじめ、長野県内、全国25都道府県から、なんと140点もの作品が寄せられました！

11月21日、地元まちづくり委員会と財産区、地域の郷土史家、発電所工事を請け負う地元の神稻建設株、おひさま進歩子会社の野底川市民発電株で選考会を開催。最終選考に残った「もりデンデン」「黒田のこりき君」を合作して、愛称「もりデンこりき君」に決定しました。愛称決定表彰式は、発電所竣工にあわせて2023年春に開催予定です。

もりデンこりき君

「もり」野底山森林公園のマスコット・モリアオガエルの「モーリー君」から。  
「デン」たくさん発電するように。  
「こりき君」小水力発電ながら力を發揮するように願いを込めて。



モーリー君

## ■新たな太陽光発電の設置事業が始まりました

今年度、おひさま進歩社は経済産業省の補助事業「需要家主導による太陽光発電導入促進補助金」に採択され、合計2MWの太陽光発電の設置に着手しています。

この事業は、製造業など電気使用量の多い法人が主体的に太陽光発電を導入するため、固定価格買取制度(FIT)に頼らない発電設備の設置費用の一部を補助するもの。発電した電気は、小売電気事業者を介して、その法人へと供給されるモデル事業です。

飯田市内のはか、長野県内、中部地方でオフサイト(敷地外)の太陽光発電所約20ヶ所を設置。発電した電気は、当社グループ会社の地域新電力・飯田まちづくり電力(株)を介して、飯田市内の企業2社へ供給されます。当社がすべてのパネルを所有するPPA(第三者所有モデル)事業です。

今年、電気料金の高騰により再生可能エネルギーによる電力自給が改めて注目を集めています。自ら設置したパネルで電気の供給を受けることで、脱炭素化に取り組みながら、電気料金の削減にもつながります。企業向けの新たな太陽光モデル事業として取り組んでいきます。



パネル設置予定の屋根での金具確認

## ■飯田まちづくり電力「冬の節電プログラム」がスタート

今冬の電力需給の厳しい見通しを踏まえて、12月から政府の節電要請が始まりました。飯田まちづくり電力は、顧客を対象に【冬の節電プログラム】を設けて、電気を効率的に利用するよう呼びかけています。

プログラムの参加特典として、まず参加を表明すると、低圧契約は最大2,000円、高圧契約は1法人1回に限り20万円が値引きされます。

節電条件が達成された場合、節電促進事業特典として【節電促進事業から1,000円】

【飯田まちづくり電力独自プログラム特典100円】を月々の使用料金から値引きします。

いよいよ冬本番。無理のない範囲で適切な省エネを心がけて、環境にもお財布にもやさしく冬を乗り切りましょう。

飯田まちづくり電力株式会社  
〒395-0044 長野県飯田市本町1丁目15番地  
(トップヒルズ本町1階)  
TEL: 0265-53-0130 http://iiden.co.jp/

## ■自治体の地球温暖化防止計画づくりを支援

今年度も市町村からの依頼を受け、2050年カーボンニュートラルに向けた計画づくり、事業実施を支援するコンサルティング業務に取り組んでいます。

2022年度は飯田市近隣の喬木村、高森町、飯島町から委託を受けています。喬木村は、村の業務によるエネルギー使用量を調査して、地球温暖化防止計画案(事務事業編)を作成。高森町では町が昨年策定した「カーボンニュートラルアクションプラン」をもとに、再エネ導入や公共施設の省エネ化の実動に向けた業務が進行中です。飯島町は、町全体の地球温暖化防止計画案(区域施策編)に向けた調査に着手しました。

このほか長野県内の複数の自治体から相談をいただいており、来年度も地域ぐるみでの脱炭素化を支援していきます。

2022年度受託実績	
長野県喬木村	地球温暖化防止実行計画策定業務 (事務事業編)
長野県高森町	地域脱炭素化移行・再エネ推進交付金 事業計画書等作成業務
長野県飯島町	令和4年度 飯島町地球温暖化防止実行 計画策定業務 (区域施策編)

## ■太陽光発電のメンテナンス事業

太陽光発電施設の発電量や設備寿命を大きく左右するメンテナンス。今年度も、おひさま発電所の屋根点検(30施設)、パワーコンディショナーの計画交換(14施設)、目視では分からぬ故障を見つけるためのソコデス検査(3施設)を実施しています。

屋根点検は、パネルのひび割れや変形がないか目視で確認します。パワコン交換は3年前からスタート。おひさまファンド1~3号で設置して、十数年が経過した発電所で故障例が出てきたため、故障前に計画的に新品交換を進めています。地道な保守業務が、日々の安定した発電を支えています。



## 飯田自然

### エネルギー大学

地域に根差した再生可能エネルギー事業の人材育成を目指す「飯田自然エネルギー大学」は、7月に第3期生19名が卒業して、10月から第4期がスタートしました。

#### <第3期>

新型コロナウイルス拡大の影響で、当初予定から半年遅れて2020年11月にスタートしました。授業は会場受講とオンライン受講を組み合わせて開催。対面で集まれる機会は減ったものの、授業後にはオンラインのアフタートーク会で感想を語り合い、交流の場を増やしました。

7月の最終授業は、コロナ感染第7波の影響で完全オンラインとなりましたが、受講生19名が1人ずつ自身の事業計画を発表して、講師の講評を受けました。卒業後も交流会が開かれたり、再エネ情報の交換が活発で、今後の活躍が楽しみです。

#### <第4期>

長野県内のほか、東京、愛知、千葉、新潟から受講生13人が集まり、10月に入学式と第1回授業を開催しました。

受講生は、再エネ・新電力事業の従事者が複数いるほか、建築士や教育普及、自治体の職員や議員など、これまでに多様な分野で経験を積んだ上で、卒業後の目標や課題をもって集まってくれました。受講生と講師陣で、これからどんな化学反応が起きるのか期待しています。

2016年に始まった本大学も、いよいよ第4期。2050年カーボンニュートラルという大きな目標が定まり、地域で主体的にエネルギー事業を担う事業者の重要性が増しています。卒業生や受講生が繋がり、全国各地で扱い手として活躍の場が広がっていくよう応援しています。



第3期生の事業計画発表会・卒業式はオンラインで開催



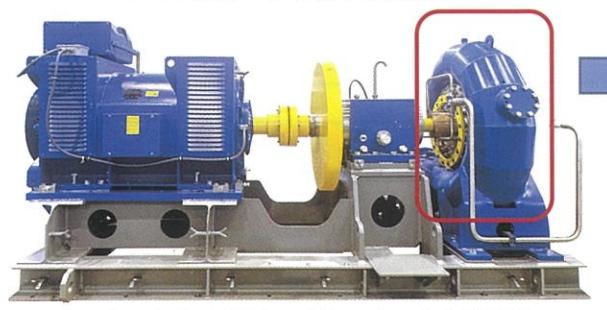
第4期生入学式の様子

## 小水力発電・番外編「水車メーカーZECO社視察」

「野底川小水力発電所」の水車は、イタリアの水車メーカー・ZECO社で設計・製造されています。10月上旬、おひさま進歩社代表と事業担当者、発電所工事を請け負う飯田市の神稻建設(株)代表と役員、ZECO社の日本代理店である愛知電機(株)とともに同社を視察しました。



ZECO社屋の水車前で記念撮影



野底川小水力発電所で導入する水車発電機



水車ランナー  
(カバー等を外して撮影)





■旭ヶ丘中学校「かやのみチャレンジ」

2015年に太陽光パネルを設置した飯田市立旭ヶ丘中学校で10月13日、1年生の総合学習「かやのみチャレンジ」が行われ、おひさま進歩社で「環境モデル都市講座」の授業を担当しました。生徒21名と、午前中は松川町の小水力発電所を見学。午後は地球温暖化の現状、発電と二酸化炭素排出のつながりを学び、自分たちができることのアイデアを発表しました。



■高森町の2小学校で環境学習

今春「カーボンニュートラルアクションプラン」を発表した高森町で、10~11月に環境学習「コンセントのむこうがわ」を行いました。南小学校は5年生4クラス、北小学校は4年生1クラスが参加。暮らしを支える電気と地球温暖化がどのようにつながるのか、二酸化炭素を減らすためにできる取り組みは何か、地図を使ったグループワークで考えました。



■「南信州環境メッセ」に出展

11月5~6日、飯田地域の企業、団体、自治体などが集まる「南信州環境メッセ」に、おひさま進歩社と飯田まちづくり電力で企業ブースを出展しました。野底川小水力発電所の工事状況や、愛称募集の候補作140点を展示したほか、卒FIT電気の買取等をPRしました。マスコットキャラクター・さんぽちゃんも久しぶりに出動！子どもたちに大人気でした。

■おひさまスタッフ紹介

9月から新たに社員1人が加わりました。吉田修は神奈川県出身で、約30年前に飯田市近隣の阿南町和合へIターン。農業に従事しながら、小水力発電の調査業務に携わった経験があり、飯田自然エネルギー大学第3期を受講していました。主に太陽光発電と小水力発電の事業開発を担当します。



吉田



新事務所（商工会議所鼎支所）前で撮影

おひさまエッセイ

家庭の事情にて2年ほど離れていましたが、4月からおひさま進歩社に戻させていただきました。改めてよろしくお願ひします！ 日々の飯田の空気はとてもおいしく、ホームに帰ってきた感じがしています。

原発再稼働や火力発電の温存を非難されている日本ですが、この2年で『地域脱炭素』という新しいキーワードが生まれていて、うれしい限りです。地方から再エネを盛り上げ、地域も元気にしようという動きが起こっています。10月には飯田市も脱炭素先行地域に選定されました。

『地域脱炭素』が目指す「“環境と経済の好循環”を地方から起こして気候危機に立ち向かう」という理念は、2004年の当社設立の理念そのものであり、原点に立ち返って奮起するときだなと思います。保育園に寄付型のパネルを設置することから始まった当社の歩みですが、みなさまのご支援により地域新電力会社の設立、小水力発電の開発まで事業が広がってきました。気候危機を食い止めるには2030年までに加速的なゼロカーボンの取り組みが必要です。飯田市、南信州から地域脱炭素に挑戦してまいりますので、これからも応援をお願いします！

おひさま進歩エネルギー(株)取締役 蓬田裕一



おひさま進歩エネルギー株式会社

〒395-0802 長野県飯田市鼎下茶屋2242-2 (飯田商工会議所鼎支所1階)

T E L 0265-56-3711、F A X 0265-56-3712

メール info@ohisama-energy.co.jp H P <http://ohisama-energy.co.jp/>